

住宅地においての意識調査

一日進市香久山 4～5 丁目を対象に－

A Questionnaire Survey on Arom-scape at a Residential District - A Case of Kaguyama 4 nd 5 Districts -

和泉 潤・宮田靖子

IZUMI Jun and MIYATA Yasuko

Abstract: This survey aims to clarify the effect of a smell or fragrance in the Kaguyama district in Nisshin-shi, Aichi Prefecture, where the community planning using fragrance has been carried out, by the questionnaire survey to the residents living in the district. The result is that the community planning using fragrance has effects on the residents, who feel the seasons through smell or fragrance of flowers and trees, which are necessary and indispensable for amenity in the district.

Keywords: *Aroma-scape, Smell, Fragrance, Amenity*

1. はじめに

社会が複雑化・高度化するに従い、人々が都市空間に心の豊かさや潤いを感じることができるようになることを求める意識が高まってきた。これは、WHOで決議された居住の4原則、すなわち、安全性、健康性、利便性、快適性において、快適性が居住面で重要視されるようになってきたことを意味している。

歴史の大きな流れで見ると、まず、古代の都市国家は、安全性に重点が置かれて都市が形成されてきた。ローマ帝国が滅亡するとともに、それまで都市が持っていた健康性がおざなりにされ、中世ヨーロッパの幾度かの伝染病の蔓延に結びついたことは、黒死病（ペスト）に代表される事例で明らかである。このため、為政者は健康性に対して重要な関心を持つようになった。さらに産業革命以降、交通に対する需要が高まり、利便性の重視が都市形成に大きな意味を持つようになってきた。そして、現代では、このような原則が満たされてきている反面、都市空間のあり方や人間関係のあり方から、快適に都市で居住することが求められるようになってきた。

この快適性を重要視する都市づくり、まちづくりで注目を集めるようになってきたのが「五感を大切にす

るまちづくり」である。これまで、まちづくりにおいては、五感の中でも視覚に配慮した景観に重点が置かれてきており、聴覚、嗅覚、触覚などの他の感覚をも取り込んだ総合的なまちづくりは行われてこなかった。言葉を換えれば、五感を大切にすることは自然との共生を図ることであり、環境共生のまちづくり、都市づくりから快適性を高めていくことが重要なポイントである。

快適性は、人間の視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚の五感から総合的に判断されるもので、個人差が大きいとはいえ、ある程度の客観性を担保することもできる。このような五感が受け取る快適性の環境情報は、植物などの自然が大きく作用しているものと考えられる。そこで、本調査では、かおりを活用した街づくり・住まいづくりを行ってきた住宅・都市基盤整備公団（現独立行政法人都市再生機構）の日進香久山団地を対象に、住民の快適性に関する意識から街づくり・住まいづくりへの「におい（かおり）」の効果を検証し、今後のまちづくりを考える一資料とすることを目的としている。

2. 香久山団地の木々の緑と花のかおりのする街づくり

対象とした香久山団地は日進市にある。日進市は、愛知県のほぼ中央部である尾張と三河の境に位置し、西は名古屋市東部、東は豊田市・三好町、南は東郷町、北は長久手町にそれぞれ隣接している。

香久山団地は 1981 年に名古屋市都市計画事業として都市計画決定され、1983 年に事業を開始し、1988 年に「まちびらき」を迎えた街である。それまでは、日進町大字梅森字株山という地名であったが、1994 年に日進町が市制施行し、現在の香久山 1 丁目から 5 丁目の地名になった。

香久山団地は、名古屋市から地下鉄とバスを利用して 40 分程度の距離であることから、名古屋市内をはじめ、周辺地域に勤める人々のベッドタウンとして宅地開発が進められ、1991 年には世帯数 174 戸、人口 530 人であったのが、2009 年 1 月現在では、世帯数 2,555 戸、人口 7,365 人まで増加している。18 年で、世帯数 14.7 倍、人口 13.9 倍の伸びである。

香久山団地は、その名にちなんで「木々の緑と花のかおりのする街づくり」をコンセプトに計画された(図 2-1)。団地内には自然林を残した水晶山緑地や季節のテーマを設定した四季の公園、12 ヶ月の広場、四季の道などが設けられている。また、団地の中央を南北に走るメインストリートにはショッピングセンターや飲食店が立地している。

1~3 丁目、5 丁目の住宅地には、近い間隔で季節をテーマにした公園、広場、道などがあるため、視覚的に自然が楽しめるとともに、道を曲がると「あれっ、何だろう、何かしらいいかおりがするな」と思うそばでその季節の植物が咲いていた、というような散歩が楽しめる街である。隣接した住宅同士が協力してその通りの景観を一緒に創りあげているようにも見えるほど、緑や花の手入れをしている住宅が多い。

4 丁目は、都市基盤整備公団が計画・設計をした集合住宅「花の街・杜の街」があり、賃貸住宅のブロックでは高低差を階段状の擁壁で処理し、段ごとに小さな平場を設けてそこを花壇にしており(花の街)、分譲住宅のブロックでは水晶山と一体となった緑をつくっている(杜の街)ことによって名づけられた。自然林である水晶山が団地内に入り込んできて、一体となるよう連続する植栽をし、視覚的に一体となる団地内の広場から水晶山緑地を見通すことができる住棟配置とし、住宅内部から緑環境と触れ合うことができるように水晶山緑地に住棟を近づける配置がしてある。

かおりの街づくりについては、植栽を中心としてハーブ類を積極的に利用し、分譲住宅ではバルコニーにハーブの植え込みが設置できるようになっている。また、季節を代表するかおりを持った植物や、一定の時刻になると開花してかおりを出す植物を団地のそこここに植えて、季節とかおりが演出する植栽計画なども試みている。

現在の香久山団地は、「まちびらき」以来、約 20 年を経て、団地内の商業施設などのハード面の発展と共に、人々の自然や心地よさを求める意識の高まりや、ライフスタイルへのこだわりが街づくりに反映されている。

3. においての意識調査

3-1 調査の内容

本調査は、大きく 3 つの部分に分けられる。①回答者の属性、②において、および③香久山団地のまちづくりについてである。においてについては、季節のにおいてを感じるかどうか、そのにおいての源は何か、心地よさや安らぎなどを感じるにおいての源は何か、身の回りで気になるにおいては何かを聞くもので、問 5~11 の 7 問あり、「において(かおり)」に対しての意識を探る。香久山団地のまちづくりを聞く部分は、団地内での行動、においてを感じる頻度、気になるにおいておよびまちづくりを聞くもので、問 12~20 の 9 問あり、自由記述の 1 問を加えて、香久山団地の「において(かおり)」のまちづくりの効果を探る。

3-2 調査の方法

本年の調査では、まず、香久山 4 丁目・5 丁目の全世帯を対象に調査票を郵送配布し、記入済みの調査票を同封の封筒により郵送回収した。対象世帯は 4 丁目 725 世帯、5 丁目 435 世帯の計 1,160 世帯であり、「配達地域指定」郵便を利用して 2008 年 11 月 20 日に郵送配布し、2008 年 12 月 13 日を返送の締め切りとした。締切日までに 208 票の返送があったが、その後 8 票の返送があったので、これを加えて回収票は 216 票となった。そのうち 1 票が無記入であったので、有効回収票は 215 票(有効回収率 18.5%)である。

3-3 回答者の属性

回答者 215 人の属性について、まず性別では、男 33.5%、女 66.5%で、男女比は 1 対 2 である(図 3-1)。年齢別では、40 代が最大で 29.8%、続いて 60 代以上の 22.8%、30 代の 20.9%、50 代の 20.0%となつ

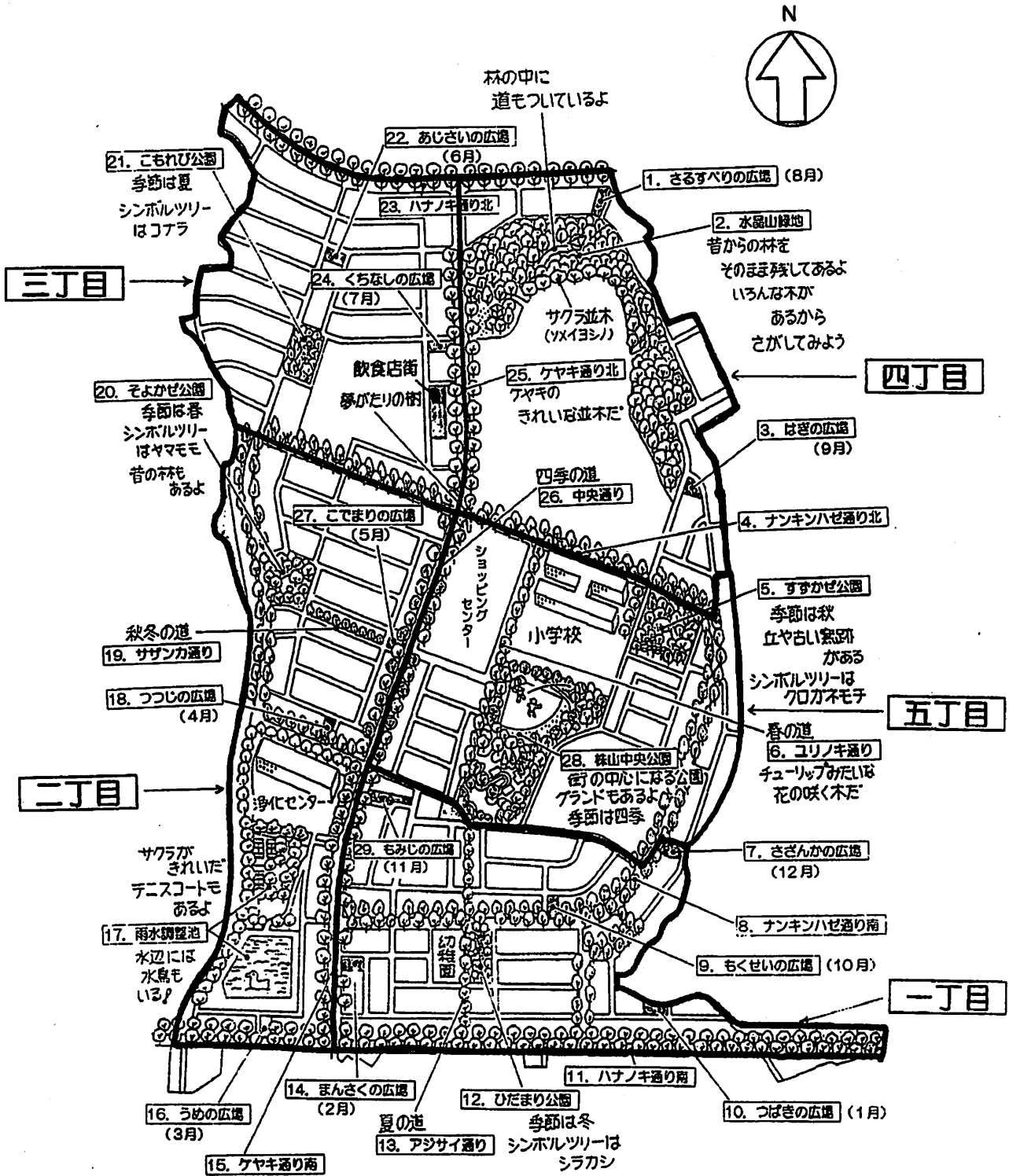


図 2-1 香久山団地

引用：住宅・都市整備公団中部支社（1998）

ている（図3-2）。20代は6.5%、10代の回答者はいなかった。居住年数については、4～10年の居住者が半数を超えており（52.6%）、つづいて11年以上の28.4%、3年以内の居住者は約2割となっている（図3-3）。居住している住戸の形式については、4丁目が公団の集合住宅（世帯比率62.5%）、5丁目の戸建て住宅（世帯比率37.5%）の比率とほぼ同じで、集合住宅62.7%、戸建て住宅36.8%となっており、両丁目の住戸形式の比率を反映している。ただ1票だけがその他（0.5%）を選択していた。

4. 意識調査の分析

4-1 においについて

（1）においで季節を感じる

ここでは、問5～11の7問の単純集計から、においについての居住者の意識をみる。まず、問5のにおい

で季節を感じるかどうかであるが、図4-1に示すように、84.0%（179人）の回答がにおいで季節を感じるものであった。ほぼ7人に6人がにおいで季節を感じている（図4-1）。「におい（かおり）」で季節を感じる調査は10年ほど前にもいくつかの自治体などで行われており、それによると、「におい（かおり）」で季節を感じる人の割合は、鎌倉市では76.1%、松本市では85.1%、堺市72.7%となっており（環境庁大気保全局大気生活環境室、2000）、今回の意識は比較して高い割合であるといえる。

（2）においで感じる季節

では、どのような季節をにおいから感じているかを問6の自由記述で聞いており、回答者あたり平均2.4の季節があげられた。記述回答をまとめると、初春・春・晩春、初夏・梅雨・夏、初秋・秋・晩秋、初冬・冬の10に分けられた。どちらに季節に入れてよいのか

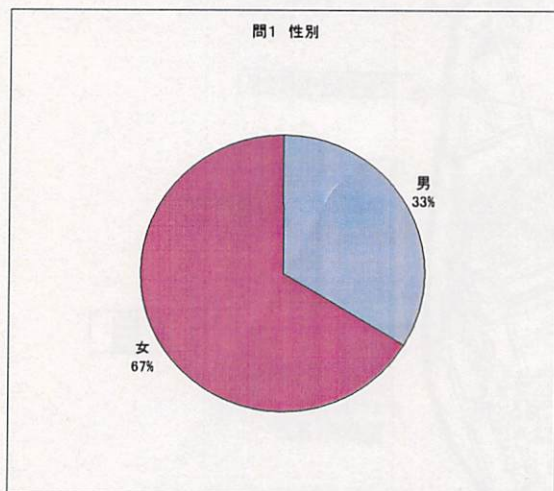


図3-1 性別

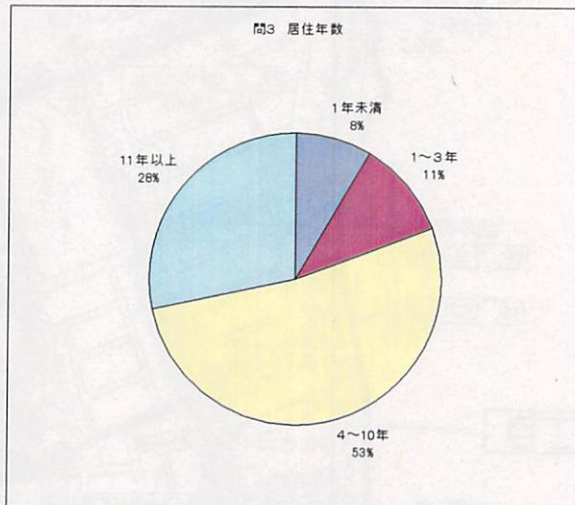


図3-3 居住年数

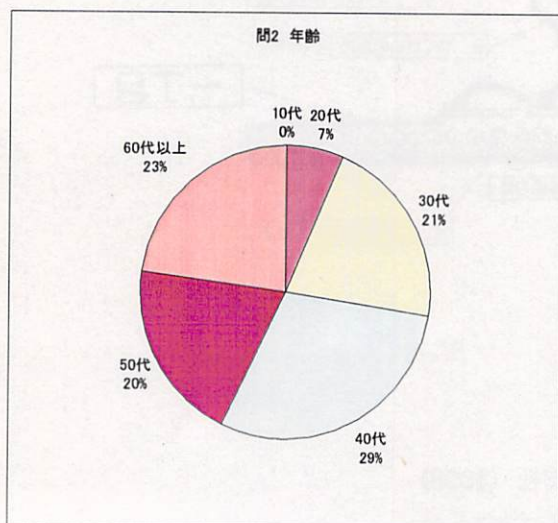


図3-2 年齢別

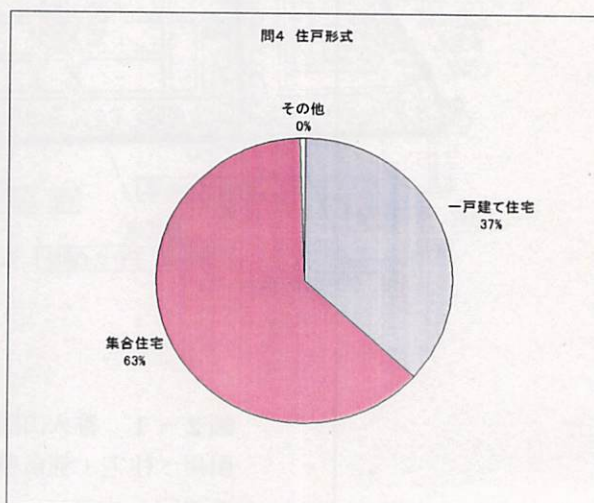


図3-4 住戸形式

判断しかねる記述については、その他とした。それらをさらに、まとめて春・夏・秋・冬およびその他とした集計結果を図4-2に示す。なお、その他の回答には、「冬と秋の境い」「すべての季節」「季節の変わり目」があった。春や初春・晩春などをあげた回答者は78.2%に上り、冬が明けて花が咲き、かおりが漂う春を感じ取っている。続いて夏と秋が64.2%で、冬をにおいて感じ取る回答者は4人に1人(25.7%)しかなく、冬においては比較すると関心を持たれていないといえる。冬は雪の降る前のにおい、雪のにおいなど冬を特徴づけるにおいがあるが、人間にとって厳しい季節であるのでにおいに関心を持たれないものと考えられる。一方で、夏にまとめた「梅雨」をにおいて感じる回答者は13.4%いた。梅雨は、この時期の植物のにおいも含めて梅雨のにおいとして感じ取っているのではないかと考えられる。また、夏のうち、初夏をあげた回答者は22.9%であり、この時期の季節の大きな変化を感じ取っているのではと考えられる。

(3) 季節を感じるにおい

さらに、季節を感じるにおいの発生源を問7で聞いている。15のにおいの発生源およびその他の回答の結果を図4-3に示す。回答者数は183人で、回答者1人あたり3.5の発生源をあげている。これによると草花、樹木、枯葉・落葉といった植物系が上位を占めており、草花が1番目で81.4%とほぼ8割の人が草花によりいずれかの季節を感じている。続いて樹木の77.6%であり、枯葉・落葉は33.9%で5番目にあげられている。3番目は日光、4番目は雨であり、自然のものが季節を感じるのに大きく貢献している。花火という夏の風物詩も季節を感じるにおいとして5人に1人があげており(21.9%)、土もあげられている(18.6%)。一方、同じ

自然のものであっても、田畑、風、雪、海、湖沼・河川は5%以下である。焚き火も初冬の風物詩としてあげられるが、最近の環境問題のあおりを受けて5%以下である。社寺についても5%を超えているが、季節を感じるにおいの発生源(彼岸の線香など)にはなっていない。やはり、草花、樹木などの自然の「におい(かおり)」が、季節感を感じさせる大きな発生源になっている。なお、その他では、「食べ物などのにおい」「衣替え時の服のにおい」「室内のにおい(冷暖房など)」「汚水処理場の臭い」など25種のにおい発生源があげられた。

(4) 心地よいと感じる「におい(かおり)」

季節を感じるにおいと同様の発生源を用いて、問8では心地よいと感じる「におい(かおり)」について聞いている。その結果を図4-4に示す。回答者数は211人で、回答者1人あたり3.8の発生源をあげている。上位3番目までは、問7と同じで草花、樹木が抜きんで高く4分の3を超えており、日光が約半数になっている。心地よさが季節を感じさせているという仮説が成り立つと考えられる。続いて風が4番目であり、季節を感じさせないものの、心地よさがある(においを運ぶ)ということができる。5番目の海も季節を感じさせないが、潮のにおいなどが心地よさを与えている。一方、雨は4割の回答者が季節として感じているが、梅雨に代表されるようにあまり心地よいとは感じていない(11.8%)。同様に、枯葉・落葉も3分の1の回答者が季節を感じているが、2割しか心地よいとは感じていない。これから来る暗い冬のイメージがあるのではと考えられる。なお、その他では、「食べ物などのにおい」「風呂のにおい(ゆずの風呂など)」「牧場のにおい」「赤ちゃんのにおい」など19種の発生源があげられ

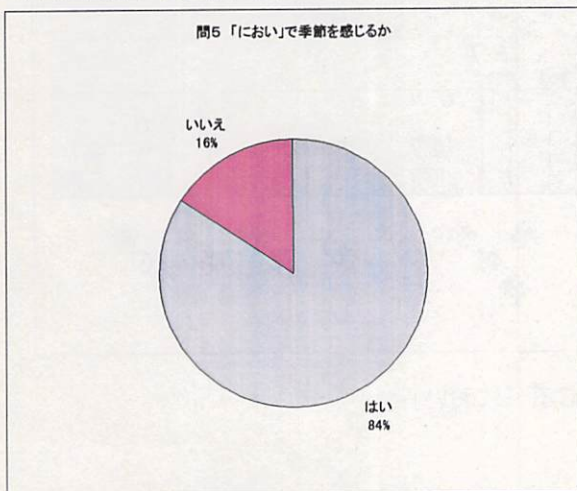


図4-1 「におい」で季節を感じる

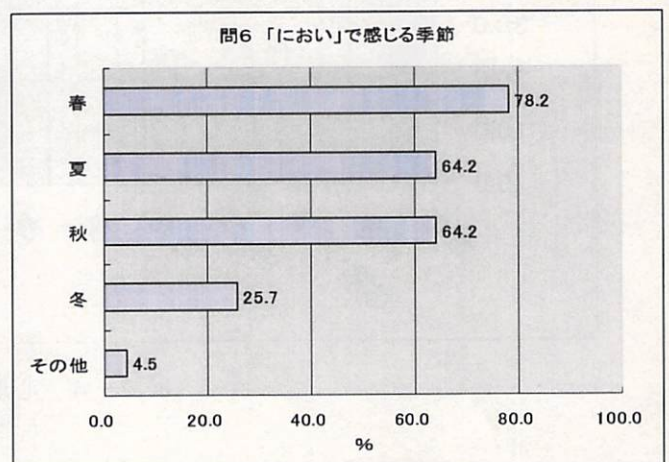


図4-2 「におい」で感じる季節

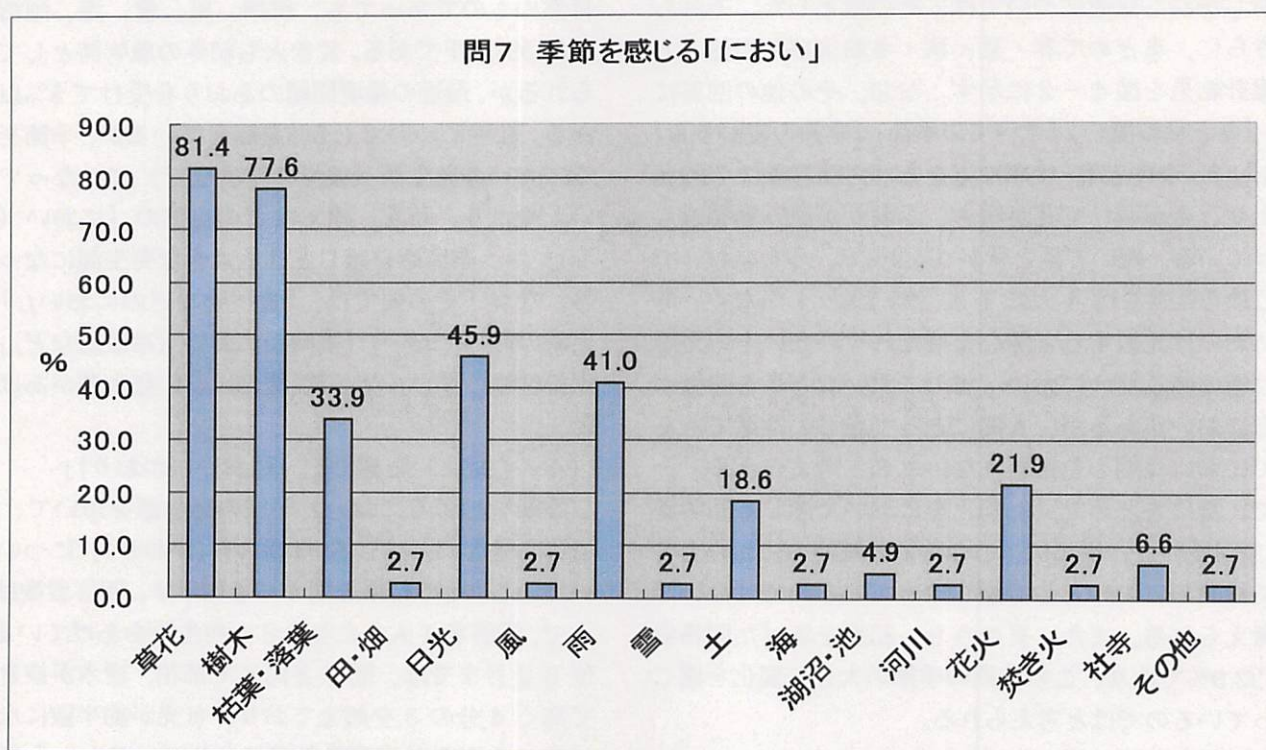


図4-3 季節を感じる「におい」

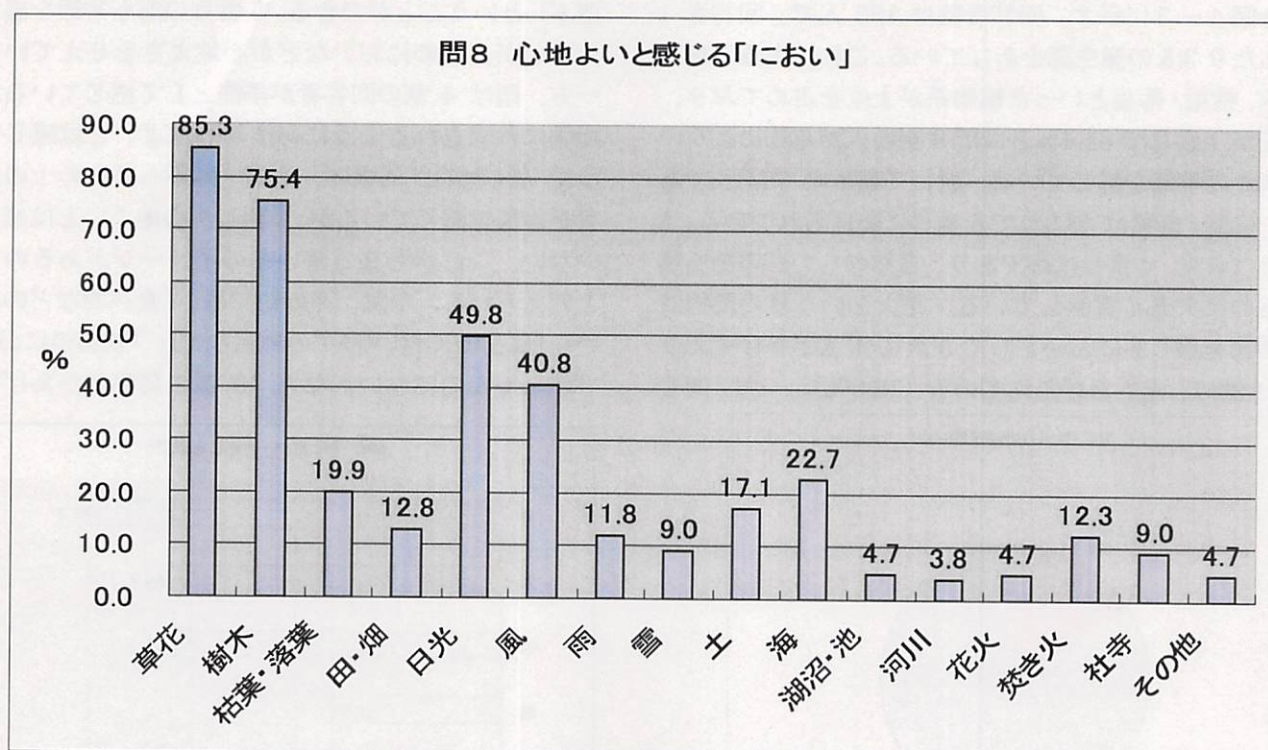


図4-4 心地よいと感じる「におい」

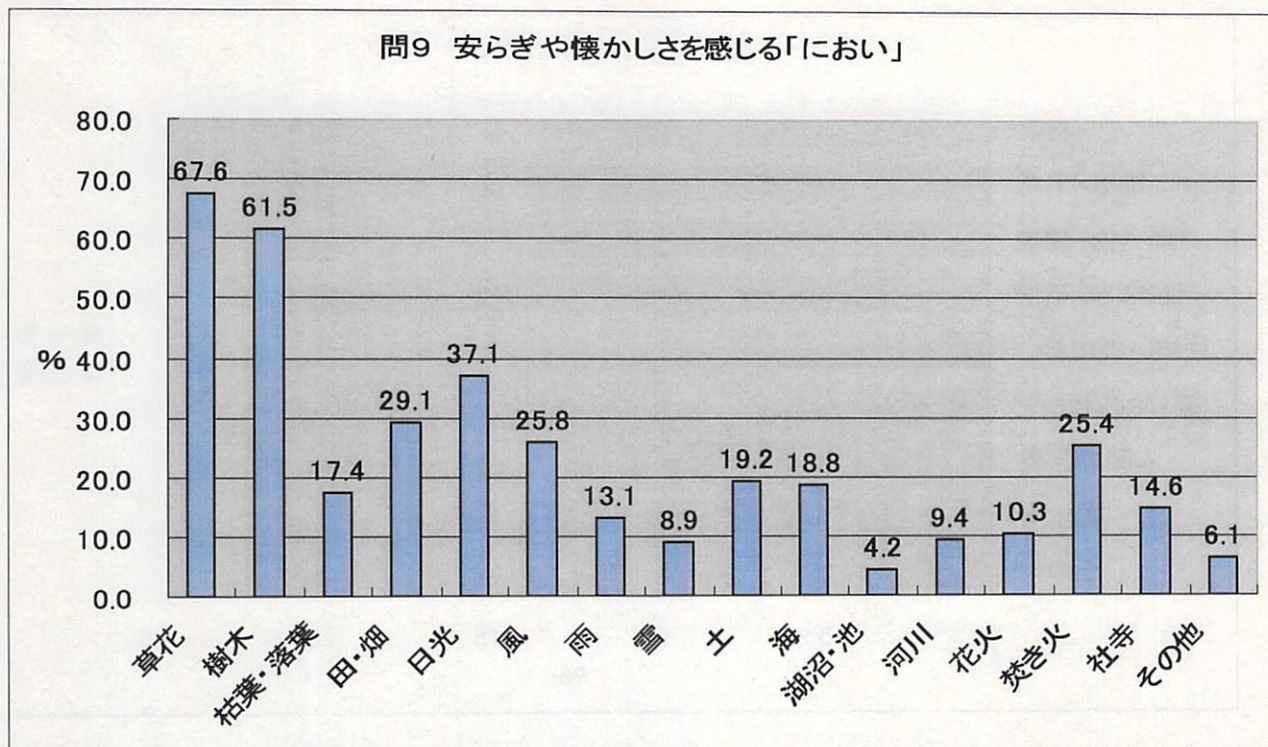


図4-5 安らぎや懐かしさを感じる「ににおい」

た。環境庁大気保全局大気生活環境室（2000）においても心地よさを感じる「ににおい（かおり）」のアンケート結果が五段階評価で示されており、「大変心地よいと感じる」「どちらかといえば心地よいと感じる」を併せた結果を見ると、上位は草花 95.2%、樹木 92.7%、日光 70.4%、風 67.8%、海 79.2%となっており、パーセントは異なるものの似ている結果となった。

（5）安らぎや懐かしさを感じる「ににおい（かおり）」

同様に、問9でも同じ発生源を用いて、安らぎや懐かしさを感じる「ににおい（かおり）」について聞いている。その結果を図4-5に示す。回答者数は213人で、回答者1人あたり3.7の発生源をあげている。やはり、草花と樹木が1番目と2番目を占めているが、問8の心地よさに比べると、草花で17.7ポイント、樹木で13.9ポイント低くなっている。その分、他の発生源の割合が高くなっている。3番目は日光で問8と変わらない

（12.8ポイント減少）が、田畑が4番目に浮上し7.1ポイント上昇している。田舎の経験のある回答者が懐かしさを感じるものとしていえると考えられる。5番目の焚き火は13.1ポイントと倍増しており、こどもの頃の焚き火で遊んだ思い出があるものと考えられる。風も25.8%であるが、心地よさに比べると15.8ポイント減少しており、安らぎや懐かしさは比較して感じられていないと考えられる。なお、その他には「故郷の空気」

「畳」「牧場」「料理」「書物」「風呂」「桜餅」「飼い猫のおしっこ」があげられた。

（6）安らぎや懐かしさを感じる理由

問10では、安らぎや懐かしさを感じる理由について聞いている。その結果を図4-6に示す。回答者数は209人で、回答者1人あたり1.8の理由をあげている。最大の理由は、「子供の頃に身近だったから」で69.9%があげている。続いて「懐かしい風景を思い出すから」が47.4%、「故郷を思い出させるから」が32.1%、

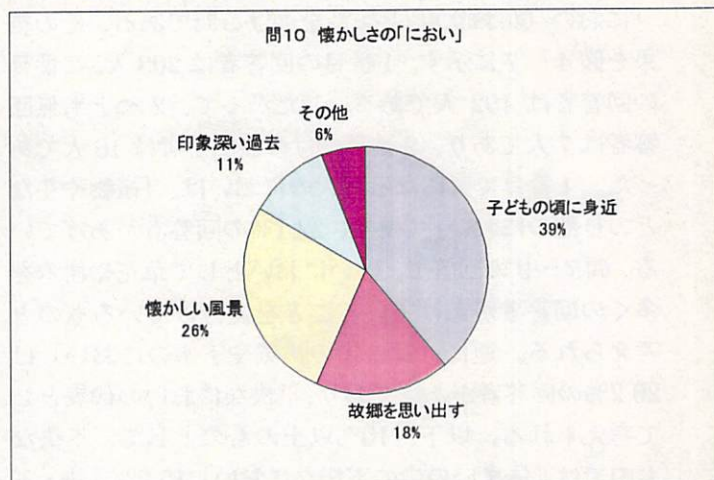


図4-6 懐かしさの「ににおい」の理由

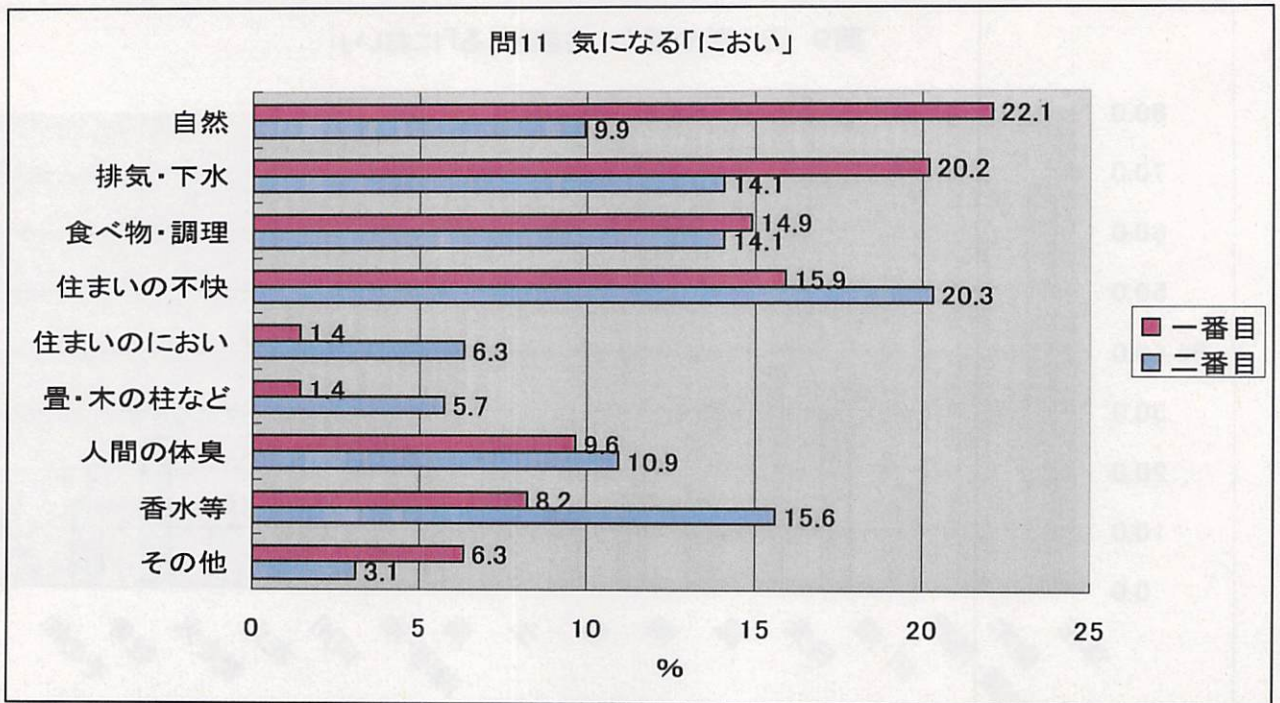


図4-7 身の回りで気になる「におい（かおり）」

「印象深い過去の体験を思い出すから」が 19.6%となっている。クロス集計をすることでより明確になるが、焚き火が倍増して上位にあげられたのは、子供の頃の思い出であると考えられる。なお、その他には「気持ちが落ち着く」「安らぐ」「気分がよくなる」「好きなかおり」などがあげられた。

(7) 気になる「におい（かおり）」

問11は、好き嫌いも含めて身の回りの気になる「におい（かおり）」を、その他を含めて9の選択肢から1番目に気になる「におい（かおり）」、2番目に気になる「におい（かおり）」と順番をつける問である。その結果を図4-7に示す。1番目の回答者は208人、2番目の回答者は192人である。したがって、2つとも無回答者は7人であり、2番目だけの無回答者は16人であった。1番目で気になる最大のにおいは、「植物や花などの自然のにおい」であり、22.1%の回答者があげている。問7～9の回答で、いいにおいとして草花や樹木を多くの回答者があげていることを裏付けているものと考えられる。逆に「街の中の排気や下水のにおい」は20.2%の回答者があげており、不快なにおいの代表として考えられる。以下、10%以上のものとして、不快なものでは「住まいの中の不快なにおい」15.9%、快・不快どちらとも考えられる「食べ物・調理のにおい」14.9%となっている。「住まいに取り入れられている良いにおい（芳香剤など）」「畳や木の柱などの良いにおい」は

いずれも1.4%であり、1番目にあげられるほどのインパクトはないものと考えられる。2番目では、「住まいの中の不快なにおい」をあげた回答者が20.3%と最大であり、1番目と2番目を併せてカウントすると3分の1の回答者がいずれかにあげている。続いて「人間のからだにつけるにおい（香水等）」が15.6%であり、1番目の倍となっている。「街の中の排気や下水のにおい」14.1%、「食べ物・調理のにおい」14.1%、「人間の体臭」10.9%となっている。

1998年に行われた住宅・都市整備公団による香久山団地でのアンケート調査では、生活の中で一番気になる（関心がある）においの間において、「植物や花などの自然のにおい」が最大で35.9%、続いて「住まいの中の不快なにおい」が17.6%、「まちの中の排水や下水のにおい」が17.1%となっており、順番や比率は多少異なるものの、上位3番目までは同じ選択肢があげられている（住宅・都市整備公団中部支社、1998）。以下、「住まいに取り入れられている良いにおい（芳香剤など）」8.2%、「食べ物や調理のにおい」5.9%、「畳や木の柱などの良いにおい」5.3%、「人間のからだにつけるにおい（香水等）」4.7%、「人間の体臭」1.8%であり、今回の調査の方が下位の選択肢についてはいずれも高く、「におい（かおり）」の関心は多様化しているのではと考えられる。

4-2 香久山団地のまちづくりについて

(1) 香久山のまちの好き嫌い

ここでは、問 12～20 の 9 問の単純集計から、香久山団地のまちづくりと「におい（かおり）」についての居住者の意識をみる。まず、問 12 のまちの好き嫌いについては、回答者 211 人中、98.6%にあたる 208 人が好きと回答している(図 4-8)。嫌いと回答した回答者は 2 人 (0.9%)、どちらでもないと回答した回答者は 1 人 (0.5%) であった。したがって、ほとんどの居住者は好きであると考えられる。

(2) まちの中をよく行く場所

好きであるからこそ散歩などで普段よく行く場所も多いと考えられるので、問 13 では、その場所を聞いた。174 人から回答があったが、よく行く場所はないと回答した回答者は 22 人(12.6%)いた。よく行く場所を持っている回答者は 152 人 (87.3%) であり、団地内・団地外併せて延べ 186 カ所があげられている。したがって、1 人あたり 1.2 カ所よく行く場所があり、団地内には延べ 159 カ所 (85.5%)、団地外延べ 27 カ所 (14.5%) である (図 4-9)。

団地内で行く場所をまとめてみると、回答者 152 人が、株山中央公園など (45.9%)、水晶山緑地 (31.4%)、緑道を含めた香久山団地内 (15.9%)、ユニーなどの商業施設 (8.8%)、公共施設 (3.8%) によく行くとしている。やはり、団地内の自然のある場所に散歩や子供と遊びに行ったりしていることがうかがわれる。一方、団地外では、回答者 27 人が牧野が池緑地 (33.3%)、天白川ウオーキングコースなど (29.6%)、愛知牧場 (7.4%)、その他 (29.6%) をあげている。団地外でも自然に親しむような場所によく行くとなっている。

(3) よく行く理由

問 14 では、問 13 での場所に行く理由を聞いている。自由記述であるため、それをまとめると、①自然に親しむ、②子供と一緒に訪れる、③生活に利用 (買物など)、④健康を高める (犬の散歩を含む)、⑤利便性や機能性 (近い・道路が広いなど)、⑥快適性 (安らぎ・癒し・落ち着くなど)、⑦その他、に集約できた (図 4-10)。156 人が回答している。最大の理由は①自然に親しむであり、3 分の 1 強の回答者があげている。続けて⑤利便性や機能性が 23.1%、④健康を高めるが 22.4%と続いており、身近な自然に親しみながら散歩することで健康を高めていることを理由に散歩を行っているものと考えられる。一方、自然がたくさんあることによる⑥快適性を理由とした回答者は 6.4%しかいなかった。香久山のまちが好きであることは、自然に親しめる場所が身近に数多く用意されているため、そこを利用することで快適性よりはむしろ健康的な生活を送ることができることを意味している。

(4) においを感じる頻度

問 15 では、団地内でおいを感じる頻度を聞いた。その結果を図 4-11 に示す。無回答の 7 人を除く 208 人の比率である。季節的に感じる回答者が半数を超えており、季節をにおいで感じる回答者 (問 5) の多くは、団地内で季節のにおい、特に草花や樹木の季節によって異なるにおいを感じている。いつも感じている人は 1 割弱であり、時々感じる人は 4 分の 1 強となっている。一方、感じない人は 5%強あり、何人かは、団地内の自然以外のにおい発生源から季節を感じ取っているものと考えられる。いずれにしても、季節的に感じる回答者が半数を超えていることは、「かおりを活用した街づくり」が住民の間に浸透しているものと考えられる。

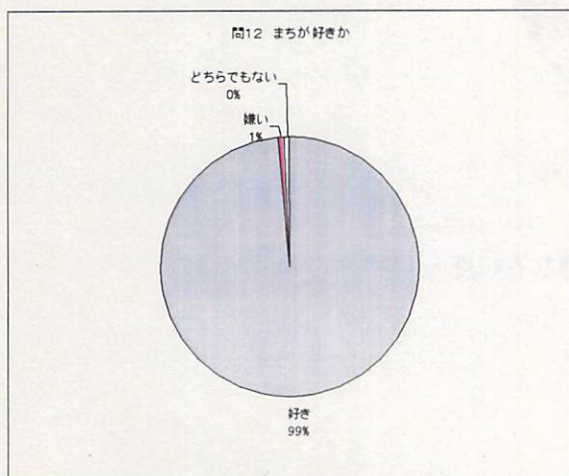


図 4-8 まちが好きか

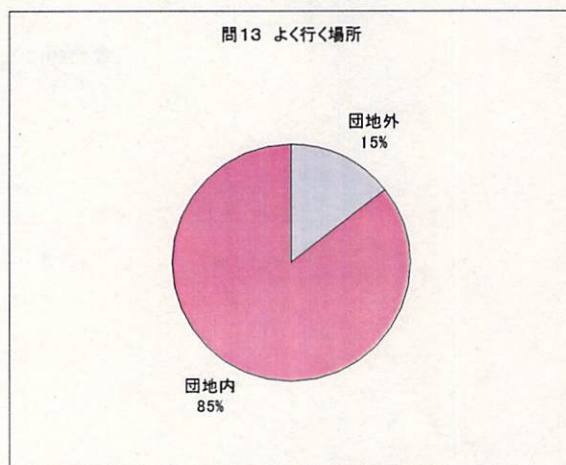


図 4-9 よく行く場所

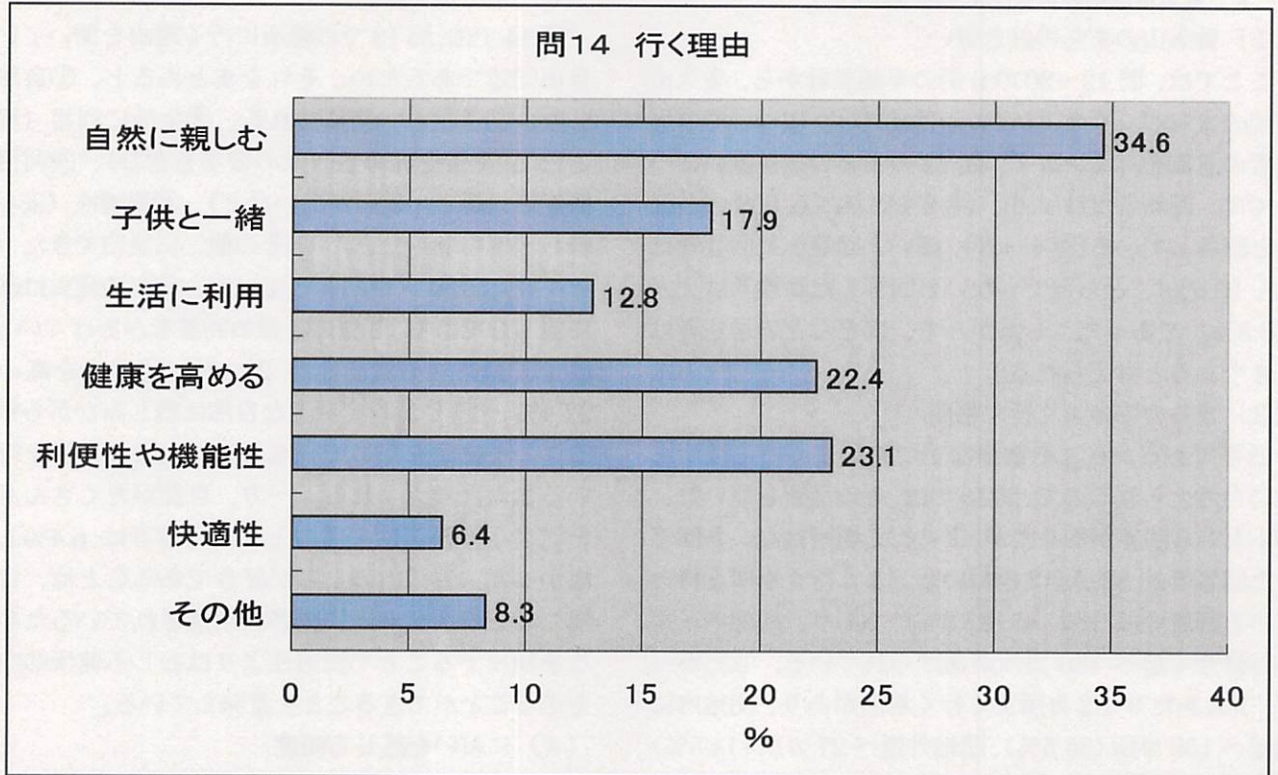


図4-10 行く理由

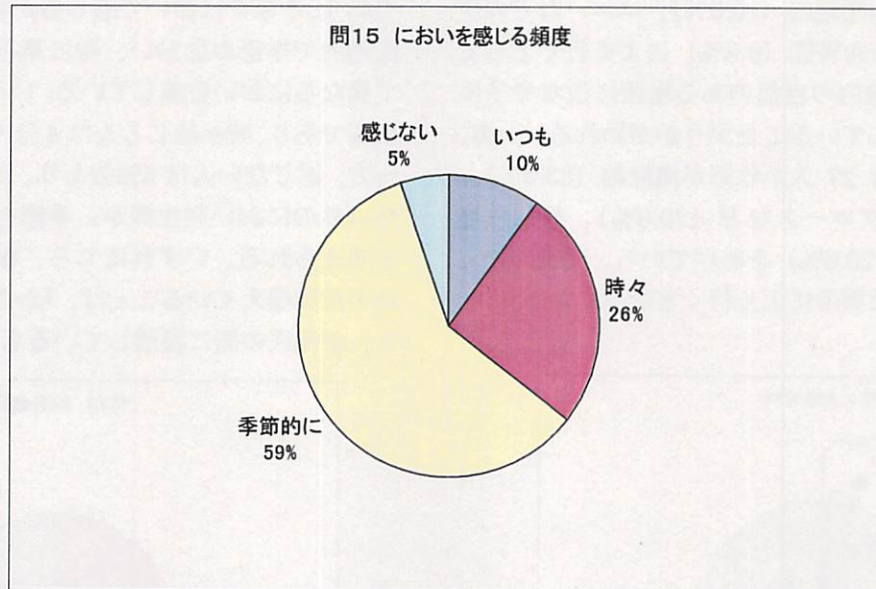


図4-11 においを感じる頻度

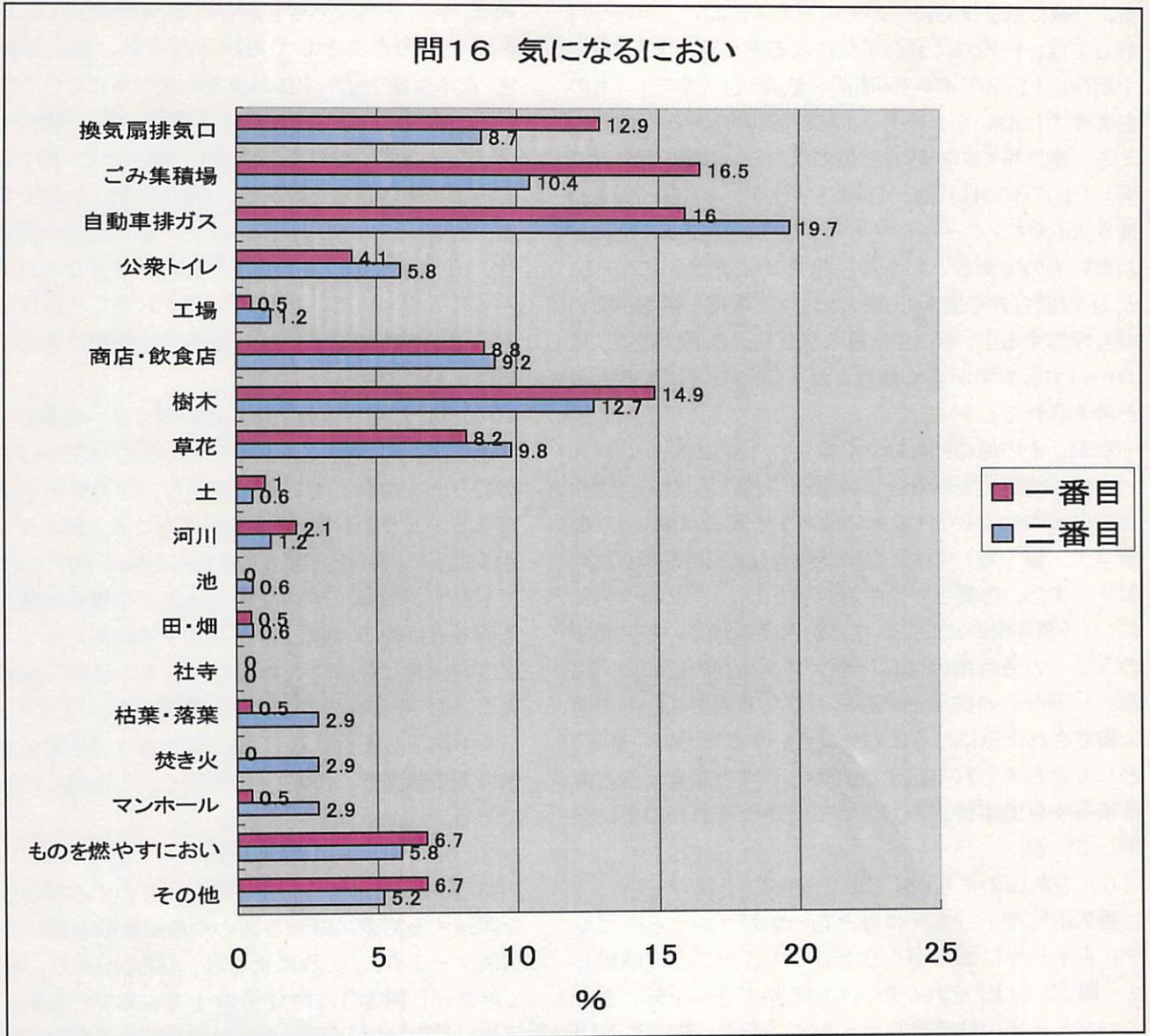


図4-12 まちの中で気になるにおい

(5) まちの中で気になる「におい（かおり）」

問16は、好き嫌いも含めてまちの中での気になる「におい（かおり）」をその他を含めて19の選択肢から1番目に気になる「におい（かおり）」、2番目に気になる「におい（かおり）」と順番をつける問である。その結果を図4-12に示す。1番目については194人回答し、2番目は173人回答した。したがって、2つとも無回答は21人であり、2番目だけの無回答は21人いた。1番目では、「ごみ集積場」のにおいが最大で16.5%、続いて「自動車排ガス」が16.0%、「樹木」のにおいが14.9%、「換気扇排気口」が12.9%といずれも10%を超えている。以下4%以上の回答比率では、「商店・飲食店」「草花」「ものを燃やすにおい」「公衆トイレ」となっている。逆に回答者が6人（3.0%）以下には、「工

場」「土」「河川」「池」「田畑」「社寺」「枯葉・落葉」「焚き火」「マンホール」があった。

一方、2番目では、「自動車排ガス」が最大で、19.7%、続いて「樹木」12.7%、「ごみ集積場」10.4%が10%を超えている。以下4%以上の回答比率では、「草花」「商店・飲食店」「換気扇排気口」「公衆トイレ」「ものを燃やすにおい」となっている。逆に回答者が6人（3.0%）以下には、「工場」「土」「河川」「池」「田畑」「社寺」「枯葉・落葉」「焚き火」「マンホール」があった。

これより、1番目・2番目とも①多いにおい、②少ないにおい、および③その中間の3つに分けることができる。多いにおいとしては、「換気扇排気口」「ごみ集積場」「自動車排ガス」「樹木」であり、いやなにおいの発生源が3つ、いいにおいの発生源が1つとな

る。一般には、まちの中の気になる「におい（かおり）」としては、いやなにおいが気になるものと考えられる。中間は、「公衆トイレ」「商店・飲食店」「草花」「ものを燃やすにおい」があり、同様の傾向にあるものといえる。逆に多くの回答者が気にならないにおいが、「工場」「土」「河川」「池」「田畑」「社寺」「枯葉・落葉」「焚き火」「マンホール」であり、まちの中であまりにおわないものであるといえる。問 8 の心地よいにおい、問 9 の安らぎや懐かしさのにおいに草花・樹木が高いのと呼応するが、問 16 で樹木が草花より高いのは、においのする樹木が多く植栽されていることによるものと考えられる。

なお、その他の回答は、1 番目で 13、2 番目で 9 あった。その記述をみると、いやなにおいとして、「浄化センターのにおい」「樹木に散布する薬のにおい」「動物（犬・猫・鶏）のフンのにおい」などがあげられており、また、悪臭という生活公害として、「タバコのにおい」「調理中のにおい」などがあげられている。隣家のトイレの芳香剤のにおいやナフタリンのにおい、湯沸かし器からの排出ガスのにおいなどもあり、その他に記述された気になるにおいは、いやなにおい（悪臭）としてとらえられる。生活公害としての悪臭は、ごみ集積場や自動車排ガスも含めて、かなりまちの中に存在している。

（6）香久山のまちづくりのテーマ

香久山団地が「木々の緑と花のかおりのする街づくり」をテーマにまちづくりを行ってきたことは前述した。問 17 では、それを知っているかどうかを聞いたものであり、その結果を図 4-13 に示す。無回答の 4 人を除くと、211 人中、知っている回答者は 1 割にも満たない 13 人（6.2%）しかいなかった。事業開始から

約 25 年、「まちびらき」から約 20 年を経過していることが一つの理由としてあげられるが、他に当時の住宅・都市整備公団の PR が普及しなかったことも考えられる。約 10 年前のアンケート調査でも、「街づくり」のテーマを聞いているが、初めて聞いた人が約 3 分の 2 を占め、聞いたことがある人が約 2 割で、知っているとの回答は 12.9% であり（住宅・都市整備公団中部支社、1998）、このことから周知があまりなされていなかったと思われる。折角のいいまちづくりを行っているので、多くの人が知り、積極的に参加できるような体制が必要である。

（7）「香り」をテーマにした街づくりへの関心

そこで、日常的に「木々の緑と花のかおりのする街づくり」を体験していることから、このテーマに関心があるかどうかを問 18 で聞いたところ、図 4-14 に示すようになった。無回答の 8 人を除く 207 人中、「とても関心がある」「少し関心がある」を併せた関心のある回答者は約 8 割に上り、居住するにあたって、このような団地に住むことの関心の度合いが高いものといえる。約 10 年前のアンケート調査でも、「とてもある」「少しある」を併せると 86.5% であり（住宅・都市整備公団中部支社、1998）、ほぼ同じような関心の度合いである。

（8）ボランティア活動について

問 19 は、「木々の緑と花のかおりのする街づくり」を实践する活動に対する関心や参加意欲を聞いている（図 4-15）。これによると、「関心があり、参加してみたい」回答者は約 4 分の 1 を占めているが、その反面、「関心はあるが活動には参加したくない」回答者は 6 割を超えており、よい環境を享受するが自ら進んで快適な環境づくりを行おうという意欲はない。

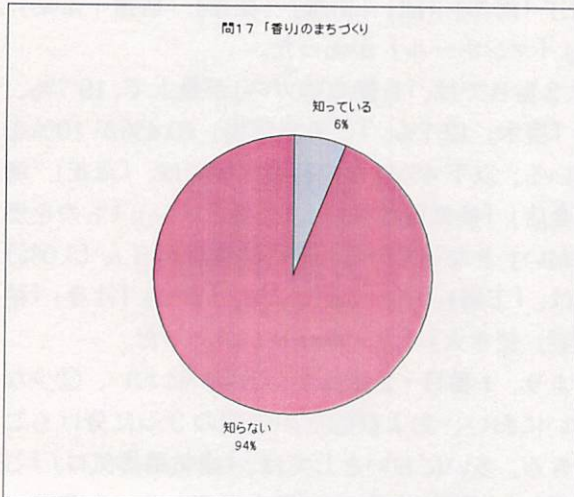


図 4-13 香りのまちづくり

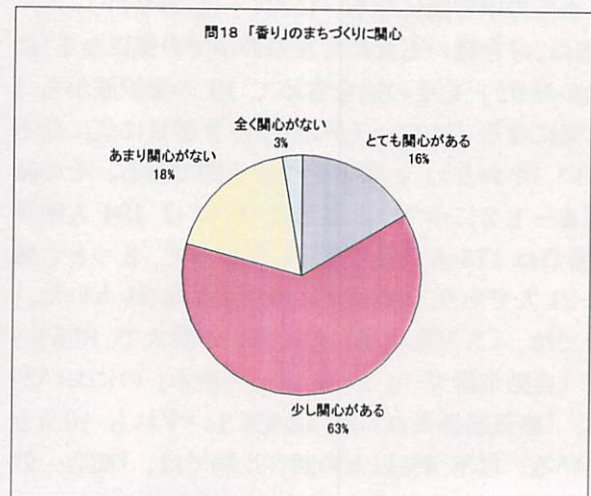


図 4-14 「香り」のまちづくりに関心

そこで、「関心がない」回答者は約 4%であるので、6割を超えている不参加者をどうやって参加してもらうのが、今後のまちづくりを考えていく上で課題といえよう。関心があってすでに参加している（公園愛護会など）回答者は、その他に記述しており、7.1%が参加または参加していたと記述している。約 10 年前のアンケート調査では、設問および選択肢が異なるので単純な比較はできないが、ボランティアの参加意欲については、「してみたい」との回答者は 32.4%であり、今回の調査での「関心があり、参加してみたい」と「その他」の記述での参加または参加していたを併せると 32.8%になり、ほぼ同じような割合になっている。言葉を換えると、時が流れても 3 分の 1 の居住者はまちづくりへの参加する意欲を持っているといえる。

(9)「におい（かおり）」の活用

身の回り、まちの中にいい「におい（かおり）」、悪いにおい（悪臭）が溢れているが、いい「におい（かおり）」を積極的に暮らしの中に活かしているかどうかを問 20 で聞いている。問には、選択肢から「一つ」を選択するように書いてあるが、複数を選択した回答者がいたので、それらをすべて「その他」として扱った。無回答の 28 を除くと、暮らしの中への活用は「アロマテラピー」が 24.1%で、つづいて「ガーデニング」の 23.5%、「かおりのインテリア」の 17.6%、「ハーブティー」の 5.9%などとなっている（図 4-16）。美容やハーブクッキングは少なかった。「ガーデニング」「かおりのインテリア」が多いのは「かおりを活用した街づくり・住まいづくり」とも関連しているので、このような活動は、問 19 のボランティア活動にもつなげていくことが可能である。「アロマテラピー」は流行の癒し系の元祖といえるもので、約 4 分の 1 の回答者があ

げている。なお、複数回答は 2 つから 4 つまでの選択肢の組み合わせであり、その中で、一番多く用いられた選択肢は「アロマテラピー」である。続いて「かおりのインテリア」「ハーブティー」「ガーデニング」であり、上記の記述を裏付けていると考えられる。また、その他での記述には、「芳香剤または消臭剤を使用している」「防虫剤は手づくり」「香水・ブレスケアの使用」があげられた。

4-3 自由回答

問 21 は、香久山団地のかおりあるいは「五感のまちづくり」について自由に記述する問であり、86 人（40.0%）の回答者が記述している。これをまとめると大きく 4 つに分けられる。

(1) 不快なにおいの削減要望

不快なにおい（悪臭）に対しては、問 16 にもあげられているように、気になる回答者が多いが、その発生源については、以下のようになる。影響を受ける住民だけでは対応できないので、行政の関わり、住民のマナー向上などが必要である。

- ① 浄化センターのにおい
- ② 自動車（くるりんバス）の排気ガス
- ③ ユニーからの揚げ物・焼き肉のにおい
- ④ タバコのにおい
- ⑤ 犬・猫の糞のにおい
- ⑥ 用水路のにおい

(2) よい「におい（かおり）」の要望

よい「におい（かおり）」を回りに増やす要望であり、大きく 3 つに分かれる。

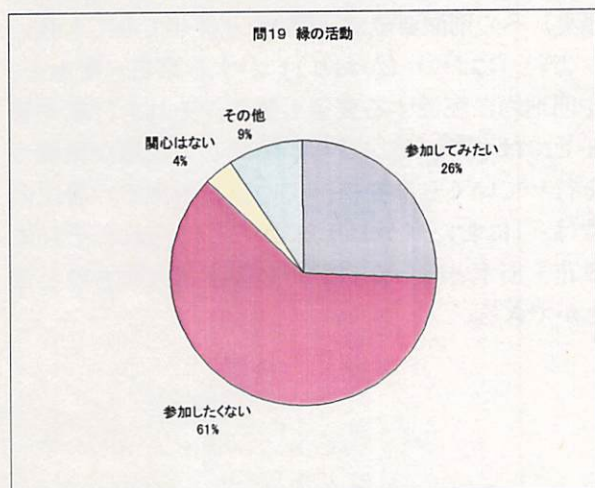


図 4-15 緑の活動

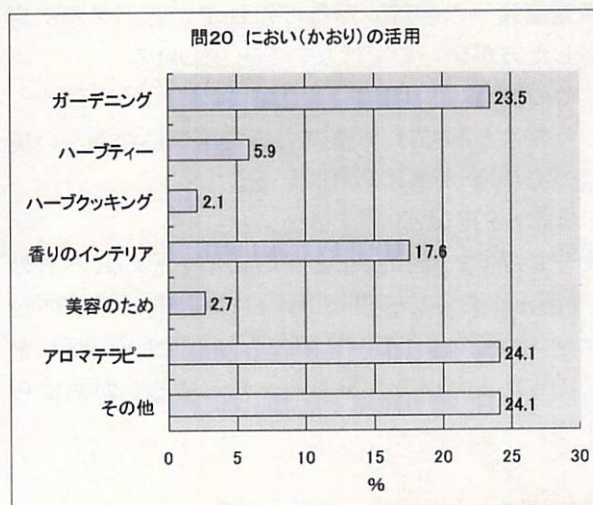


図 4-16 におい(かおり)の活用

① 施設・装置の設置（配置）

これには、「季節にあったかおりと場所の配置」「旬のにおいを感じる環境づくり」「リラックスできるかおりの公園・散策路の設置」「ハーブの散策路（小径）の設置」「アロマシャワー（ミスト）の設置」「木酢液・竹酢液を樹木の防虫に活用する」ことがあげられている。

② 樹木・草花の植栽

現在の植栽以外に、「花やかおりのある樹木を植栽」「みかん系の木の植栽」「ラベンダーのかおりがするように」「キンモクセイを分散して植栽」「各戸での沈丁花や金木犀の植栽する」ことがあげられている。行政や管理者だけではなく、各戸も積極的な参加が求められている。

（3）まちづくりへの要望

① 視覚的な側面

これには、「散歩道へオブジェを配置する（芸術作品のコンテストなど）」「視覚的に安心感を与える」「目で楽しめる季節が増える」「緑を減らさない」「緑あふれるスペースを創り出す」があげられている。

② 聴覚的な側面

これには、団地に不足している五感と考えられるもので、「水の音（小川や沢）の設置」「生き物の声が増えるようにする」があげられている。

③ 維持管理

これは、行政や管理者への要望として、「公園のテーマ性が薄れている」「歩行者サインの老朽化」「街路樹の維持管理（剪定時期の問題）」「空き地の雑草の処理」があり、居住者への要望として、「公園愛護会への参加」があげられている。早急に対応した方がいいのではないと思われる。

④ その他

その他としては、「全ての面で不快にならない街（づくり）」があげられている。

（4）広報・PR など

行政や管理者、自治会などへの要望と思われるもので、「季節とかおりの関連ポスターの配布」「季節のかおりマップの配布」「花の見頃のお知らせ」「かおりをテーマにしたまちづくりをもっと知らせる」があげられた。

香久山団地（4丁目および5丁目）居住者を対象に、快適性を与える「におい（かおり）」の側面から、香久山団地の街づくり・住まいづくりへの「におい（かおり）」の効果を検証して、住民の「におい（かおり）」に関する快適性の意識の一端を明らかにした。

季節を多くの居住者が「におい（かおり）」で感じていることは、日本人として共通のものであることが、少ないサンプルではあると言えるのではないかと考えられる。それに貢献しているのが、草花・樹木の「におい（かおり）」であり、これは居住者に心地よさを与えるとともに、安らぎや懐かしさをも与えている。したがって、気になるにおいの1番目に自然があげられているのは居住者が常に嗅覚を研ぎ澄ましているといえる。このような居住者は香久山団地が好きであり、その多くが団地内を自然に親しむためによく散歩している。そして、団地の中で嗅覚を研ぎ澄ませて、季節毎に季節の「におい（かおり）」を感じている。一方、団地内には自然以外に多くの人工的なにおい（悪臭）があり、研ぎ澄ましているが故に換気扇排気口から出るにおい、ごみ集積場のにおい、自動車の排ガスのにおいには敏感になり、気になるにおいとしてあげている。

このような居住者が、住宅・都市整備公団の「かおりを活用した街づくり・住まいづくり」を知っていたかどうかをみると、居住者の多くは知ってはならず、自由回答にもあるように、PR・広報不足がその大きな要因になっているといえる。しかしながら、このテーマのまちづくりの関心は、程度の差はあれ、多くの居住者があり、「におい（かおり）」の環境整備に関心を持って参加したい意欲はみられる。

ともあれ、自由回答にみられるように、不快なおい（悪臭）への削減要望は、問16と併せてみても強い反面、よい「におい（かおり）」がする草花・樹木を、住宅や団地内に配置する要望も強く、それも行政や管理者任せではなく、住民自らが配置して快適な環境づくりを行っていく意欲を持っていると言える。居住の快適性は、「におい（かおり）」からつくられ、それには、草花・樹木と言った自然が必要不可欠なものと言いうことができる。

5. おわりに

今回の調査において、住宅・都市整備公団が「かおりを活用した街づくり・住まいづくり」を行ってきた

謝辞

本調査の実施にあたり、多くの関係者のご協力を得たことを感謝します。特に、誤字・脱字が多かったアンケートに真摯に回答していただいた回答者の皆さん、それから本調査を実施するにあたり適切な助言・指導をいただいた独立行政法人都市再生機構中部支社の関係者の皆さんには厚くお礼申し上げます。

なお、本調査は、名古屋産業大学環境経営研究所の平成20年度共同研究費を使用して実施しました。

参考・引用文献

- (1) 環境庁大気保全局大気生活環境室編著(2000)、快適なおい環境づくりに向けて、ぎょうせい
- (2) 住宅・都市整備公団中部支社(1998)、かおりを活用した街づくり・住まいづくり 街と住まいの環境としての「かおり」に関する研究報告書、住宅・都市整備公団

付録 アンケート票

住宅地のおいに関するアンケート調査票

アンケート調査ご記入のお願い

アンケート調査票の質問部分は、この表紙を除いた2ページ～4ページにあります。大きく三つの部分に分かれており、質問の総数は21問です。質問には、それぞれ、○印をつける、地名などを書く、番号を記入する、と書いてありますので、それに従ってご記入ください。なお、○印については、「一つ」選択する質問と、該当する番号「すべて」を選択する質問に分かれておりますので、質問のところの下線を引いてある「一つ」または「すべて」のとおり○印をつけてください。

ご回答が終了しましたら、この調査票を三つ折りにして、同封の封筒に封入し、12月13日(土)までにご返送をお願いいたします。なお、皆様方からご返送いただいたご回答は、すべて統計的に処理いたしますので、皆様方にご迷惑をおかけするようなことはありません。ご質問やご不明な点がありましたら、下記までご一報をいただければ幸いです。よろしくお願いします。

平成20年11月

〒488-8711 尾張旭市新居町3255-5
名古屋産業大学大学院環境マネジメント研究科
和泉研究室
担当 和泉 潤(教授)
宮田靖子(兼任講師)
電話 0561-55-5101(代表)
FAX 0561-52-0515
E-mail izm@nagoya-su.ac.jp

I. あなたについておたずねします。

問1 性別について該当する番号一つに○印をつけてください。

- 1 男 2 女

問2 年齢について該当する番号一つに○印をつけてください。

- 1 10代 2 20代 3 30代 4 40代 5 50代
6 60代以上

問3 現住地での居住年数について該当する番号一つに○印を付けてください。

- 1 1年未満 2 1～3年 3 4～10年 4 11年以上

問4 お住まいの住宅の形式について該当する番号一つに○印をつけてください。

- 1 一戸建て住宅 2 集合住宅（マンション等） 3 その他（ ）

II. 「におい」についておたずねします。

問5 あなたは「におい」で季節を感じますか。該当する番号一つに○印をつけてください。

- 1 はい → 問6にお進みください。
2 いいえ → 問8にお進みください。

問6 「におい」で感じる季節をいくつでもお書きください。

（例：春、初夏、晩秋など ）

問7 季節を感じる「におい」はどれですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

- 1 草花 2 樹木 3 枯葉・落葉 4 田・畑 6 日光
7 風 8 雨 9 雪 10 土 11 海
12 湖沼・池 13 河川 14 花火 15 焚き火 16 社寺
17 その他（ ）

問8 あなたが心地よいと感じる「におい（かおり）」はどれですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

- 1 草花 2 樹木 3 枯葉・落葉 4 田・畑 6 日光
7 風 8 雨 9 雪 10 土 11 海
12 湖沼・池 13 河川 14 花火 15 焚き火 16 社寺
17 その他（ ）

問 9 あなたが安らぎや懐かしさを感じる「におい（かおり）」はどれですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

- | | | | | |
|---------|-------|---------|--------|-------|
| 1 草花 | 2 樹木 | 3 枯葉・落葉 | 4 田・畑 | 6 日光 |
| 7 風 | 8 雨 | 9 雪 | 10 土 | 11 海 |
| 12 湖沼・池 | 13 河川 | 14 花火 | 15 焚き火 | 16 社寺 |
| 17 その他（ | ） | | | |

問 10 問 9 で選んだ「におい（かおり）」が安らぎや懐かしいと感じる理由はどれですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 子供の頃に身近だったから | 2. 故郷を思い出させるから |
| 3. 懐かしい風景を思い出すから | 4. 印象深い過去の体験を思い出すから |
| 5. その他（ | ） |

問 11 あなたの身の回りで気になる「におい（かおり）」はどれですか。1～9の中から順に2番目まで選んで下の〔 〕の中に番号をご記入してください。

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1 植物や花などの自然のにおい | 2 街の中の排気や下水のにおい |
| 3 食べ物や調理のにおい | 4 住まいの中の不快なにおい |
| 5 住まいに取り入れている良いにおい（芳香剤等） | |
| 6 畳や木の柱などの良いにおい | 7 人間の体臭 |
| 8 人間のからだにつけるにおい（香水等） | |
| 9. その他（ | ） |

1 番目に気になるにおい〔 〕 2 番目に気になるにおい〔 〕

Ⅲ. あなたがお住まいの香久山のまちについておたずねします。

問 12 あなたのまちが好きですか。該当する番号一つに○印をつけてください。

- 1 好き 2 嫌い

問 13 あなたのまちで散歩など普段よく行く場所がありますか。その場所の名前を（ ）内にお書きください。

（例：水晶山緑地）

問 14 その理由は何ですか。（ ）内にお書きください。

（

問 15 あなたのまちの中でおいを感じる頻度はどの程度ですか。該当する番号一つに○印をつけてください。

- 1 いつも 2 時々 3 季節的に 4 感じない

問 16 あなたのまちの中で気になる「におい（かおり）」はどれですか。1～19の中から順に2番目まで選んで下の〔 〕の中に番号をご記入してください。

- | | | | |
|------------------------|----------|------------|----------|
| 1 換気扇排気口 | 2 ごみ集積場 | 3 自動車の排気ガス | 4 公衆トイレ |
| 5 工場 | 6 商店・飲食店 | 7 樹木 | 8 草花 |
| 9 土 | 10 河川 | 11 池 | 12 田・畑 |
| 14 社寺 | 15 枯葉・落葉 | 16 焚き火 | 17 マンホール |
| 18 ものを燃やすにおい 19 その他（ ） | | | |

1番目に気になるにおい〔 〕 2番目に気になるにおい〔 〕

問 17 香久山のまちは「香り」をテーマにしたまちづくりを行ってきたことをご存じですか。該当する番号一つに○印をつけてください。

- 1 知っている 2 知らない

問 18 香久山のまちの「香り」をテーマにしたまちづくりに関心がありますか。該当する番号一つに○印をつけてください。

1. とても関心がある 2. 少し関心がある 3. あまり関心がない
4. 全く関心がない

問 19 あなたはまちの公園や歩道に花や木を植えたり育てたりする活動についてどう思いますか。該当する番号一つに○印をつけてください。

- 1 関心があり、活動に参加してみたい
2 関心はあるが、活動には参加したくない
3 関心はない。 4 その他（ ）

問 20 あなたは暮らしの中で「におい（かおり）」をどのように活用していますか。該当する番号一つに○印をつけてください。

- 1 ガーデニング 2 ハーブティー 3 ハーブクッキング
4 香りのインテリア 5 美容のため 6 アロマセラピー（リラックスのため）
7 その他（ ）

問 21 香久山のまちの「香り」あるいは「五感のまちづくり」についてご意見がありましたらご自由にお書きください。例えば、「まちの中にこんな〔におい（かおり）〕があればいいと思う」などです。

ご協力、ありがとうございました